

No.16
知る知る
深める
新得町

町民の夢を応援する
夢基金

町民の方にご紹介！
あなたはこの情報を
知っていますか？

【夢基金の目的】
夢基金は町民の方が自ら行うまちづくりを促し、その実践を支えることを目的に、町が平成6年に設けました。
認定した事業に対して補助金を交付し、活動を支援します。

【夢基金の申請と審査】
町内に住所を有し、町税を完納している個人・団体が申請をすることが出来ます。
申請された事業は夢基金運営委員会（町長から委嘱を受けた町民12人）が審査し、認定の可否を決定します。

【補助対象事業】
対象事業は、地域おこし、地場産業の振興、人材育成、その他地域の活性化につながる事業で、次の条件を満たすものです。
・町民に成果の還元が期待されるもの

・新規事業もしくは既存事業の拡大
・継続的な補助とならないもの
・他の補助、助成制度を活用できないもの
・全体計画や将来構想に夢や可能性が感じられるもの など

【補助の範囲】

補助率 対象経費の3分の2
限度額 100万円
※事業が自己の利益につながる場合など、自己資金が用意できないなど特別な場合は3分の2を超えて補助する場合もあります

【近年認定を受けた事業】

平成27年度
・第20回SHINTOKU空想の森映画祭
・新得短歌会としくとくふるさと歌留多製作
平成28年度
・神田香織・講演「はだしのゲン」新得講演会
平成29年度
・新得パンデイ連盟とパンデイ普及活動事業（用具の購入）

【お問い合わせ】
夢基金に興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。
夢基金運営委員会 事務局
町民課 住民活動係
(電話) 64-10528

町長室から
こんにちは

新得町長 浜田正利

新年明けましておめでとうございます。
今年には次の4点について特に意識しながら行政執行に臨んでいこうと考えています。
一点目は、開拓から120年の節目を迎えたことについてです。
先人に感謝し次の時代に繋がることを念頭に様々な記念事業の実施を予定しています。
具体的な事業は今後広報などでお知らせしますが、取り組みにあたっては皆さんのご協力を切に願います。

二点目は、駅前再整備についてです。
なかなか具体的な内容がお知らせできていませんが、昨年11月から専任の職員を配置しており、さらに4月にも体制を強化して事業執行を加速させていきたいと思っています。



再整備には法律の制限などもあるため、対応を進めながら必要な機能を整理していきます。今はまだ時期を明言出来ませんが、今後計画の概要を皆さんにお知らせしていきます。

三点目は、人材確保についてです。国内のあらゆる産業で人材不足が報道されていますが、そもそも人口が少ない本町では特に厳しい状況にあります。
地域社会を安定させるために人材の確保は大きな課題です。全町的に抱えている課題等を整理し、目指すべき方向性の情報の共有を進めていきたいと考えています。

四点目は、空き家、空き地対策についてです。
農地、林地などは一定のルールに基づき町で取得をすることとしています。市街地については公共の用途に必要な場所以外は民間の取引のなかでの解決が適切と思っておりますが、人口減少がここまですべて進むと適切な市街地形成、インフラの維持の観点からも行政が関わりながら対応を進めることを考えていかなければならないのではと思っております。

時間がかかる問題かもしれませんが改善に向けた打ち合わせを進めていきます。
現在、平成31年度予算編成作業を進めています。
皆さんの生活を支えるため、これまで以上の予算となるようまとめていきたいと思っています。

郷土の歴史を
新得町郷土研究会が
ご紹介します
一緒に
歴史の散歩に
出掛けましょう

しんとく
歴史歩
歴史散

No.40

旧屈足十勝川渡船場

今のように川に橋が架けられていなくなった時代、渡船が川を渡る交通手段として大きな役割を果たしていました。

屈足十勝川渡船場（通称森渡船場）は、屈足村と音更村字クテウシ（現鹿追町）とを結ぶ官設渡船場として明治40（1907）、屈足23号の十勝川右岸に設けられました。人を運ぶ船1艘と馬を運ぶ船1艘が配置され、人馬、物資を運ぶ足として利用されました。

大正5（1916）年に私設渡船場に移行となりましたが、翌年に渡船場の少し下流に屈足橋（現新清橋）が架けられたことから利用者が減少しました。そして、昭和3（1928）年に北海道拓殖鉄道の新得1鹿追間が開通したことにより、さらなる利用者の減少が見込まれるため廃止となりました。



屈足十勝川渡船場の谷本船頭（左）

渡船場の初代管理人は森利三良で、その後谷本久太郎に引き継がれました。
大正末期から昭和初めにかけての子どもの頃に渡船場をよく利用した松浦昇は「船は結構大きく、十数人は乗れた。馬も馬車を付けて乗れるものもあった。当時は、谷本さんが船頭をしていて、対岸でお願ひしたら、昼夜に関係なく船を出してくれた。船賃ははつきり覚えていないが、10銭から15銭くらいだったかね」と話されています。

渡船場跡には昭和61（1986）年8月、新得町教育委員会と新得町郷土研究会により史跡石柱が建てられています。
このほか、新得町内には明治末期に屈足42号に設けられた岩松渡船場がありました。昭和12（1937）年に吊り橋に変わり、その役目を終えています。

短歌

新得短歌会

わが足となり手となりし車とて
手離す裡に「ぼっ」とするかな
小野 洋子

年の瀬にせつなにちるる花びらは
思いかさなりひびの巡りに
小野 恭子

夫と吾の老いの姿に重なる
庭木に未たる雀の二羽よ
高橋 幸子

落ちるごと尾を曳きて雲千歳にと
向かうらしかり十勝の師走
小関 白潮

なに語る言葉えらびの多き女性
おふ呑む手元支えてやれぬ
中井由利子

千しながらかわいい香りに深呼吸
短冊状に切った大根
岡田御狸裸

物心つきし日大戦いま安らぎに
高ふこの先暖簾ゆたかに
斎藤美代子

感動が目標と今 京薩摩
劇「北飛翔II」思い出しつ、
菊池 水月

和歌と吟趣味が高じてそのあまり
自分で結ぶ名古屋帯かな
樋口かおり

俳句

新得俳句同好会

平成の終りを告げて除夜の鐘
渡辺アヤ子

句を学び人生学ぶ去年今年
八木 育子

合えば直ぐ余命の話除夜の鐘
月井 穂峰

クリスマス坊さんもケーキ和やかに
大崎かずお

改号に百寿の夢や春を待つ
袴田ゆき男

玉手箱に仲間の集うクリスマス
斎藤 青苔

古里は友のいる町吹雪く町
高橋 民女

年用意妻の手筈と食い違ふ
中島 土方